

千葉県八千代市

# 市内遺跡発掘調査報告書

平成10年度

八千代市教育委員会

# 例 言

1. 本書は、八千代市内に所在する、川崎山遺跡、新林遺跡、内野南遺跡、西内野遺跡の発掘調査の報告書である。
2. 調査は、八千代市教育委員会が平成10年度市内遺跡発掘調査事業として国庫及び県費の補助を受けて実施した。
3. 調査遺跡の所在地、期間、面積、調査原因は下記のとおりである。

No.	遺 跡 名	所 在 地	調査期間	面 積	調査原因
1	川崎山遺跡 (f地点)	萱田町字川崎山 759の一部	10.8.6 ～10.8.14	209m <sup>2</sup> ／1,550m <sup>2</sup>	宅地造成
2	新林遺跡 (c地点)	上高野字新林 1201-1の一部他	10.8.7	74m <sup>2</sup> ／722m <sup>2</sup>	公園造成
3	内野南遺跡 (b地点)	吉橋字内野 1079-3他	10.8.24 ～10.9.10	775m <sup>2</sup> ／5,400m <sup>2</sup>	工場建設
4	西内野遺跡	吉橋字西内野 1824-1他	11.2.5 ～11.2.25	763m <sup>2</sup> ／5,400m <sup>2</sup>	物流センター建設

4. 整理作業及び報告書作成作業は平成11年3月1日から3月26日までの期間行った。
5. 本書の執筆は、宮澤がⅠを、森がⅡ-1を、蕨がⅡ-2・3・4を行った。

# 目次

I 調査に至る経緯	1
II 各遺跡の概要	3
1. 川崎山遺跡 f 地点	3
2. 新林遺跡 c 地点	4
3. 内野南遺跡 b 地点	5
4. 西内野遺跡	9
報告書抄録	15
調査組織	16

## 挿図目次

第1図 市内遺跡位置図	2	第8図 内野南遺跡 b 地点遺構検出状況図	8
第2図 川崎山遺跡 f 地点位置図	3	第9図 内野南遺跡 b 地点	
第3図 川崎山遺跡 f 地点遺構検出状況図	4	1号土坑・2号土坑実測図	8
第4図 新林遺跡 c 地点位置図	5	第10図 西内野遺跡位置図	10
第5図 新林遺跡 c 地点トレンチ配置図	5	第11図 西内野遺跡土層断面図	10
第6図 内野南遺跡 b 地点位置図	7	第12図 西内野遺跡遺構検出状況図	11
第7図 内野南遺跡 b 地点土層断面図	7		

## 図版目次

図版1 川崎山遺跡 f 地点(1)～(5)・新林遺跡 c 地点(6)～(8)	12
(1) 調査前風景	(5) 遺物出土状況
(2) 調査風景	(6) 調査前風景
(3) 遺構検出状況	(7) 調査風景
(4) 遺構検出状況	(8) 調査風景
図版2 新林遺跡 c 地点(1)・内野南遺跡 b 地点(2)～(8)	13
(1) トレンチ掘削状況	(5) 1号土坑セクション
(2) 調査前風景	(6) 1号土坑完掘状況
(3) 完掘全景	(7) 2号土坑セクション
(4) 調査風景	(8) 2号土坑完掘状況
図版3 内野南遺跡 b 地点(1)・西内野遺跡(2)～(8)	14
(1) 土層断面(A1-12-1グリッド西壁)	(5) 完掘全景
(2) 調査前風景	(6) 土層断面(A1-85-1グリッド西壁)
(3) 調査風景	(7) 遺構検出状況
(4) 調査風景	(8) 遺構検出状況

# I 調査に至る経緯

本市は首都圏のベッドタウンとして宅地開発が進んだ地域であり、平成8年4月の東葉高速鉄道の開業以来、この性格は強まっている。そうした状況の中、八千代市教育委員会（以下「市教委」と略）では千葉県教育委員会（以下「県教委」と略）の指導のもと、開発事業者からの埋蔵文化財の有無とその取り扱いについての照会（以下「照会」と略）に対処し、埋蔵文化財の保護に努めている。このうち確認調査が必要と判断される遺跡については、国庫と県費の補助を受け発掘調査を実施している。

川崎山遺跡 f 地点 平成10年4月、杉山芳子氏から宅地造成のため照会が提出された。これを受け現地踏査を実施したところ、現況は山林で、急傾斜地の部分も含まれていたが、周知の遺跡の範囲内であり、過去の周辺の確認調査の実績から、遺構が検出される可能性が高いと考えられ、急傾斜地の部分を除く1,550 m<sup>2</sup>について確認調査が必要と判断した。その後、事業者との協議を重ね、7月に文化財保護法57条の2第1項の規定による土木工事の発掘届（以下「土木工事の届」と略）が提出され、準備の整った8月6日に調査を開始した。

新林遺跡 c 地点 平成10年2月、岩井きみ氏から共同住宅建設のため照会が提出された。当照会は、平成9年5月に提出された事業の計画変更に伴うもので、平成9年度に実施された確認調査範囲外も開発範囲におよんでいるものであった。現地踏査を実施し、平成9年度の確認調査および本調査の成果を踏まえ、確認調査未実施区域にあたる710.99m<sup>2</sup>については引き続き確認調査が必要と判断した。現況は駐車場のためアスファルトの撤去の時期など、事業者と協議を重ね、8月に土木工事の届が提出され、準備の整った8月7日に調査を開始した。

内野南遺跡 b 地点 平成10年6月、那須電機鉄工株式会社より工場増設のため照会が提出された。これを受け、現地踏査を実施した。照会地は周知の遺跡の範囲外であったが、平成10年4月に本調査を実施した地区の隣接地に位置していた。照会面積が10,000m<sup>2</sup>以上のため、県回答の案件となり、この旨を副申し、県教委と協議の結果、7月9日に試掘を実施することとなった。試掘の結果、縄文時代の土坑らしき遺構が検出され、削平を免れ、比較的原地形を残していると思われる、5,400 m<sup>2</sup>を新発見の遺跡とし、確認調査が必要と判断した。その後、事業者と協議を重ね、8月に土木工事の届が提出され、準備の整った8月24日に調査を開始した。

西内野遺跡 平成10年12月、新京成電鉄株式会社より物流センター建設のため照会が提出された。これを受け、現地踏査を実施した。面積は28,060m<sup>2</sup>におよぶものの、現況は工場および山林で遺物の散布状況を観察しうる地点が存在しなかった。照会面積が10,000m<sup>2</sup>以上のため、県回答の案件となり、この旨を副申し、県教委と協議の結果、平成11年1月8日に試掘を実施し、縄文時代の土坑らしき遺構を検出した。試掘の結果を踏まえ、山林部分のうち5,400 m<sup>2</sup>を新発見の遺跡として、確認調査が必要と判断した。その後、事業者と協議を重ね、1月に土木工事の届が提出され、準備の整った2月5日に調査を開始した。

八千代都市計画基本図

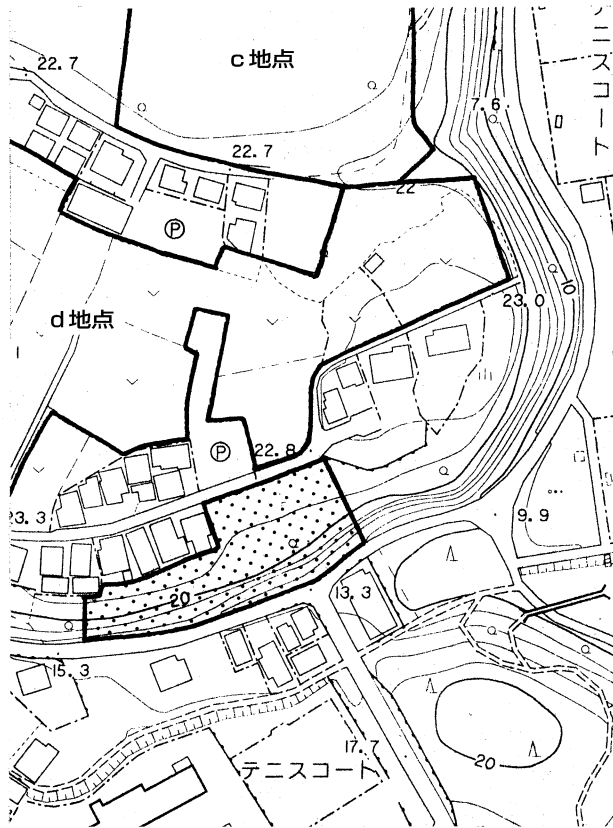


第1図 市内遺跡位置図 S=1/50,000

0 2500 m

## II 各遺跡の概要

### 1. 川崎山遺跡 f 地点



第2図 川崎山遺跡 f 地点位置図 S=1/2500

#### 遺跡の立地と概要

川崎山遺跡は市域の南部、新川の西岸に位置する。南北を新川から入り込む谷によって区画された台地上一帯が範囲である。本遺跡については過去において5ヶ所の地点（a～e 地点）で調査を行っており、その結果旧石器時代から平安時代に至る遺構・遺物を検出している。今回の調査区域は f 地点である。

f 地点は、本遺跡の最南端の台地斜面部で、標高約23mから20mのところの位置し、平坦面は無かった。新川の低地との比高差は約13mを測る。現況は山林である。

#### 調査の方法と経過

調査は、山林のため均等にトレンチを設定することができず、木の中に任意にトレンチを設定し掘削を行い、遺構の検出状況を見ながら、必要に応じてトレンチの増設や拡張を行い、遺構の捕捉に努めた。

調査期間は、平成10年8月6日～8月14日で、6日に機材搬入・トレンチ設定を、6日～7日に手掘りによる包含層調査を、7日～10日に重機

による表土除去作業を、7日～12日に遺構の確認作業・表土層断面調査・遺構のサブトレンチ調査を、12日に機材撤収を、13日～14日に重機による埋め戻し作業を行い調査を終了した。

#### 調査の概要

調査区の基本層序は、Ⅰ表土層、Ⅱ黒色土層、Ⅲ黄褐色土層（新期テフラ層）、Ⅳ暗褐色土層、Ⅴソフトローム漸移層、Ⅵソフトローム層となっている。遺構の確認作業はⅥ層上面で行い、地表面からは平均して60cm程度で確認面に到達していた。

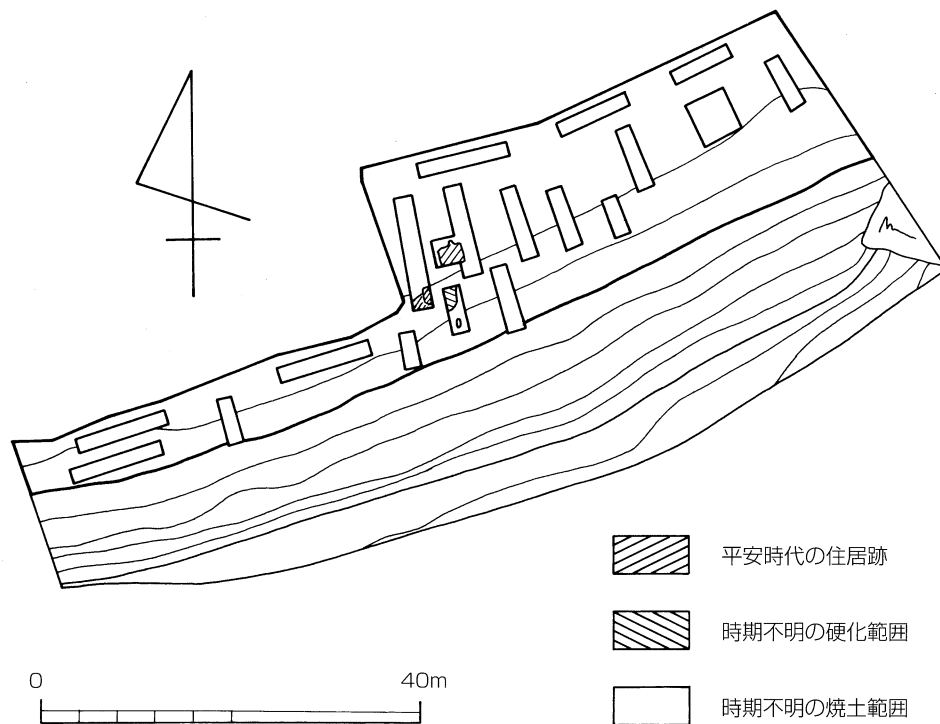
調査の結果、平安時代の住居跡3軒（1軒はカマドも検出する。）、時期不明の硬化範囲1ヶ所、時期不明の焼土範囲1ヶ所を検出した。

遺物は、平安時代の土師器や灰釉陶器の破片が出土している。傾向としては住居跡を検出したトレンチからの出土がほとんどで、他のトレンチからの出土はほとんど無かった。

#### 調査のまとめ

今回の調査で検出した住居跡は3軒と少なかったが、隣接する c・d 地点（c 地点では住居跡52軒・d 地点では住居跡34軒を検出する大集落である。）の集落の続きであり、当集落における居住域南側の限界範囲を明らかにすることができた。

a～f 地点の調査の結果から、川崎山遺跡は旧石器時代から平安時代に至る複合遺跡で、広範囲に展開していることがはっきりとした。また、弥生時代から平安時代に至る大集落は、台地上縁辺部か



第3図 川崎山遺跡 f 地点 遺構検出状況図 S=1/800

ら平坦面にかけて大きく広がっていること、縄文時代の遺構は台地上中央部から西側にかけてその多くが展開していることもはっきりとした。今後は、さらに調査例を増やししながら、一調査にとどまらない、より総合的で広い視野での考察が必要とされる遺跡である。

## 2. 新林遺跡 c 地点

### 遺跡の立地と概要

新林遺跡は市域中央を流れる新川の東岸、辺田前から東に大きく入り込む谷の最奥部の台地上に位置している。標高は約27mを測り、台地と谷との比高差は約9mである。

周辺の調査例としては、平成6年に調査区南東の近隣地の a 地点を、同年に西方隣接地の b 地点を調査している。また、北側隣接地において平成5年に二重堀遺跡 a 地点、同6年に二重堀遺跡 b 地点の調査を実施している。新林遺跡では縄文時代の早期の遺構・遺物を、二重堀遺跡では旧石器時代と縄文時代の前期の遺構・遺物を検出している。今回の調査は、平成9年に調査した c 地点の追加区域で、第2次確認調査である。現況は駐車場であるため、大きく攪乱を受けているのではないかと考えられた。

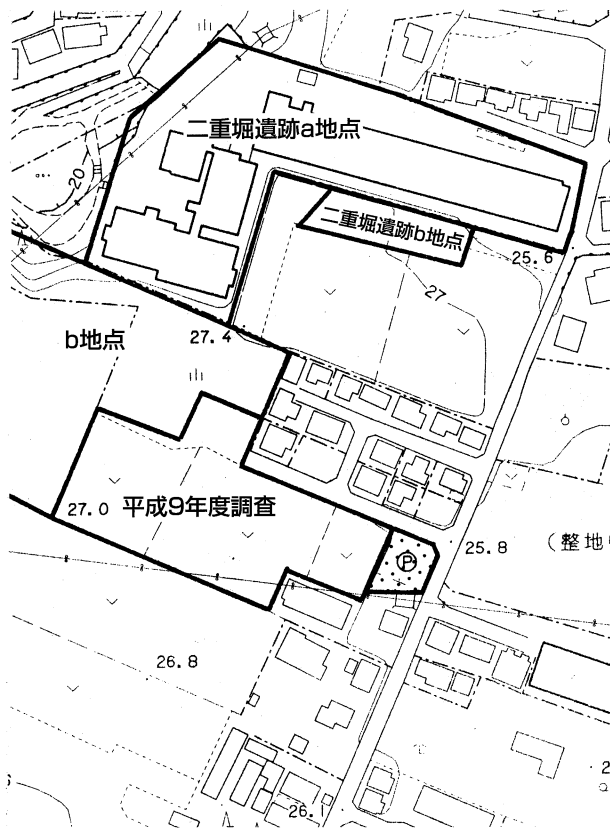
### 調査の方法と経過

調査は、調査区の形状にあわせて7m間隔に1.5m×5mのトレンチを設定し掘削を行い、遺構の検出状況を見ながら、必要に応じて拡張を行い、遺構の捕捉に努めた。

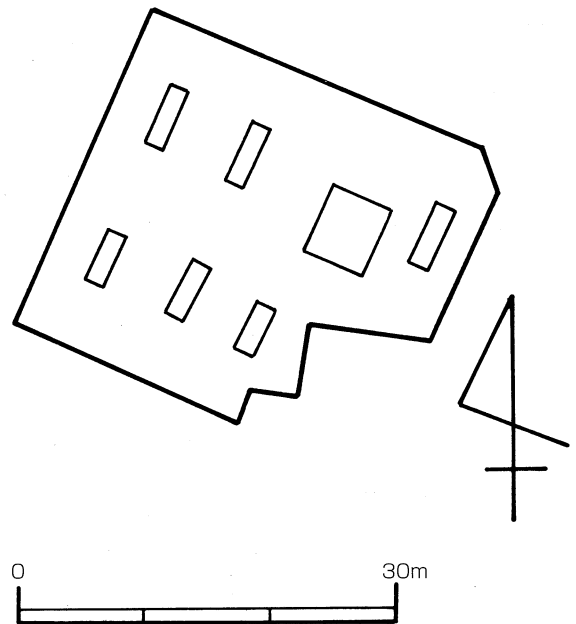
調査日は平成10年8月7日で、トレンチ設定、重機による表土除去作業、遺構確認作業、埋め戻し作業などすべてを行い調査を終了した。

### 調査の概要

調査区の基本層序は、Ⅰ盛り土層、Ⅱ表土層、Ⅲソフトローム層となっていた。調査区全域にわた



第4図 新林遺跡c地点位置図 S=1/2500



第5図 新林遺跡c地点 トレンチ配置図

S=1/600

り削平されており、Ⅲ層中にまでおよんでいる所が大半を占めていた。遺構の確認作業はⅢ層上面もしくは中位で行った。地表面から確認面までの深さは3cm～45cmとまちまちであった。

調査の結果、どのトレンチからも遺構・遺物は検出できなかった。

#### 調査のまとめ

新林遺跡c地点は平成9年9月から10月にかけて本調査を実施しており、縄文時代（中期）の住居跡2軒、縄文時代の土坑41基、時期不明の溝1条を検出し、縄文土器・打製石斧1点・石鏃1点を出土している。今回追加調査をした区域は、本調査区域からそう離れた所ではなかったが、遺構・遺物を検出することはできなかった。本地点に展開する縄文時代の集落の居住域南西側の限界範囲を明らかにすることができたと思われる。

新林遺跡が所在する上高野地区は、これまでも断続的に数度の調査が実施されているが、遺構・遺物の密度が薄い地区とされている。過去の調査成果を踏まえながら、今後の調査例を増やし、考察を進めていかなければならない地域である。

### 3. 内野南遺跡b地点

#### 遺跡の立地と概要

内野南遺跡は、市域中央を東西に流れる桑納川より南へ大きく入り込む谷の最深部、西側の台地上に位置している。標高は約27mを測り、台地と谷との比高差は約13mである。

本遺跡は周知の遺跡ではなかったが、平成10年4月にa地点の確認・本調査を実施し、縄文時代と奈良時代の遺構・遺物を検出したことにより、新発見の遺跡となった。今回の調査区域はb地点で、a



地点の北側に隣接する所で、現況は荒蕪地である。

#### 調査の方法と経過

調査は、調査区の形状にあわせて10m間隔に1.5m×4mのトレンチを設定し掘削を行い、遺構の検出状況を見ながら、必要に応じてトレンチの増設、拡張を行い、遺構の捕捉に努めた。その結果、検出遺構が少なかったため、検出した遺構の本調査まで行い調査を終了した。

調査期間は平成10年8月24日～9月10日で、24日に機材搬入・方眼測量作業を、25日にグリッド設定作業を、26日～31日に重機による表土除去作業を、27日～4日に遺構検出作業・表土層断面調査を、4日～10日に検出遺構の本調査を、10日に機材撤収を行い調査を終了した。

#### 調査の概要

調査区の基本層序は第7図のとおりである。遺構の確認作業はVI層上面で行い、地表面から平均して70cm程度で確認面に到達していた。

調査の結果、縄文時代の落とし穴と思われる土坑1基、同時代の土坑1基を検出した。出土遺物は、縄文土器しかなく、早期の井草式、中期の加曽利E式、後期の加曽利B式の土器小片を少量出土しただけであった。遺物の出土層位はV層中である。遺構・遺物ともに密度が薄いという状況であった。旧石器時代については4ヶ所24m<sup>2</sup>のテストピットを入れたが遺物は検出できなかった。

以下、検出された遺構についての調査所見を述べることにする。

##### 1号土坑

A1-82-1グリッドに位置する。遺構検出はVI層上面で行った。平面形態は東北から南西に長い楕円形で、長軸2.08m、短軸0.95mを測り、坑底の平面形態は隅丸長方形で、長軸0.86m、短軸0.17mを測る。壁は急な斜めに立ち上がり、オーバーハングしている部分は無いが、長軸において少し段差がついている。底面の状態はほぼ平坦である。底面中央での深さは確認面より2.09mを測る。底面に小穴等の付属施設は検出できなかった。遺物は出土しなかったが、グリッド出土遺物から判断して、縄文時代中期～後期の落とし穴と考えられる。

土坑内覆土は、6層に分けられ、最下層の6層については人為的な埋め戻しが想定された。また、6層中には炭の微粒がパラパラと少し含まれていたが、焼土は認められなかった。5層から上層はすべて自然堆積による埋没土であり、焼土や炭は含まれていなかった。

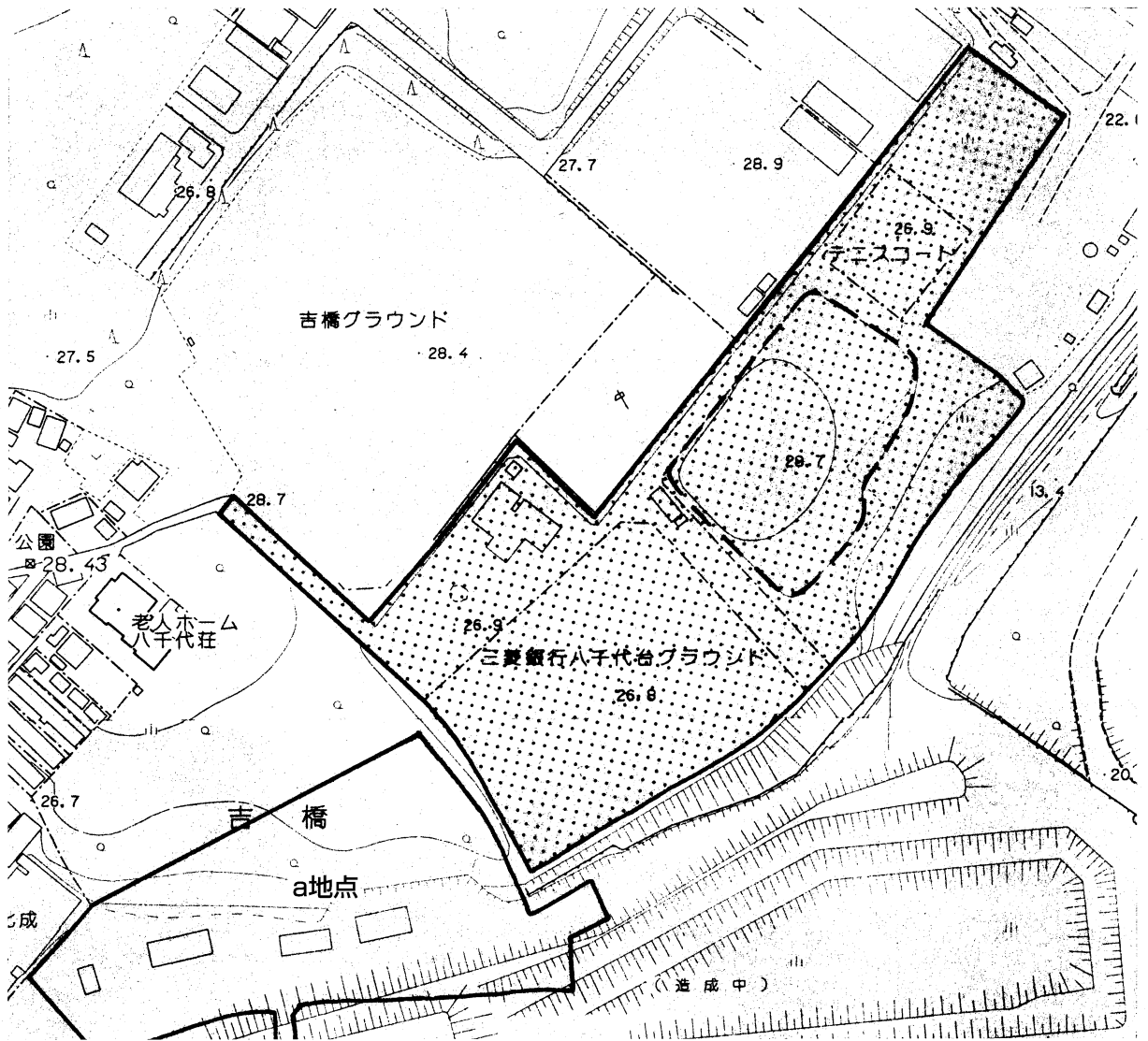
##### 2号土坑

A1-33-4グリッドに位置する。遺構検出はVI層上面で行った。平面形態は東北から南西にやや長い楕円形で、長軸1.12m、短軸0.81mを測る。壁は底面より斜めに立ち上がる。底面の状態は皿状をしており、底面中央での深さは確認面より0.18mを測る。底面には、長軸0.52m×短軸0.41m、深さ0.05mを測る、平面形態が楕円形のピット1基を伴う。

土坑内覆土は、4層に分けられ、すべて自然堆積による埋没土である。土坑の底面や壁に焼土化範囲は認められなかったが、4層中に焼土の微粒が少し含まれることから判断して、数回程度の火が焚かれたことが考えられる。本土坑から遺物は出土しなかったこともあり、ファイヤーピットとはっきりとはいえないので、縄文時代の土坑として捉えておきたい。

#### 調査のまとめ

今回の調査で検出した遺構は落とし穴1基・土坑1基と少なかったが、隣接するa地点の確認・本調査においても縄文時代早期の炉穴5基・縄文時代前期のピット5基・奈良時代の住居跡1軒と検出された遺構は少なかった。内野南遺跡における遺構の展開は、現在のところ密度が薄いといえる。また、主体となる時代もはっきりとはしていない。出土遺物においても同様なことがいえる。



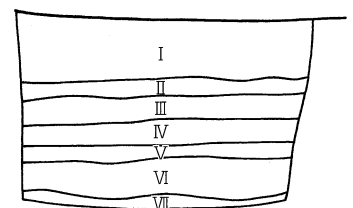
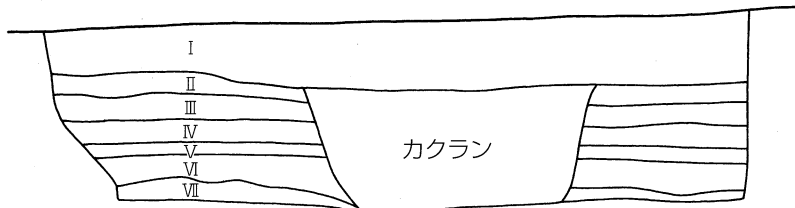
第6図 内野南遺跡b地点位置図 S=1/2500

A1-12-1グリッド西壁

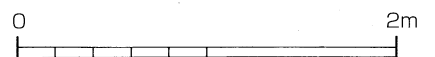
A1-12-1グリッド北壁

● ——— L = 29,100 m

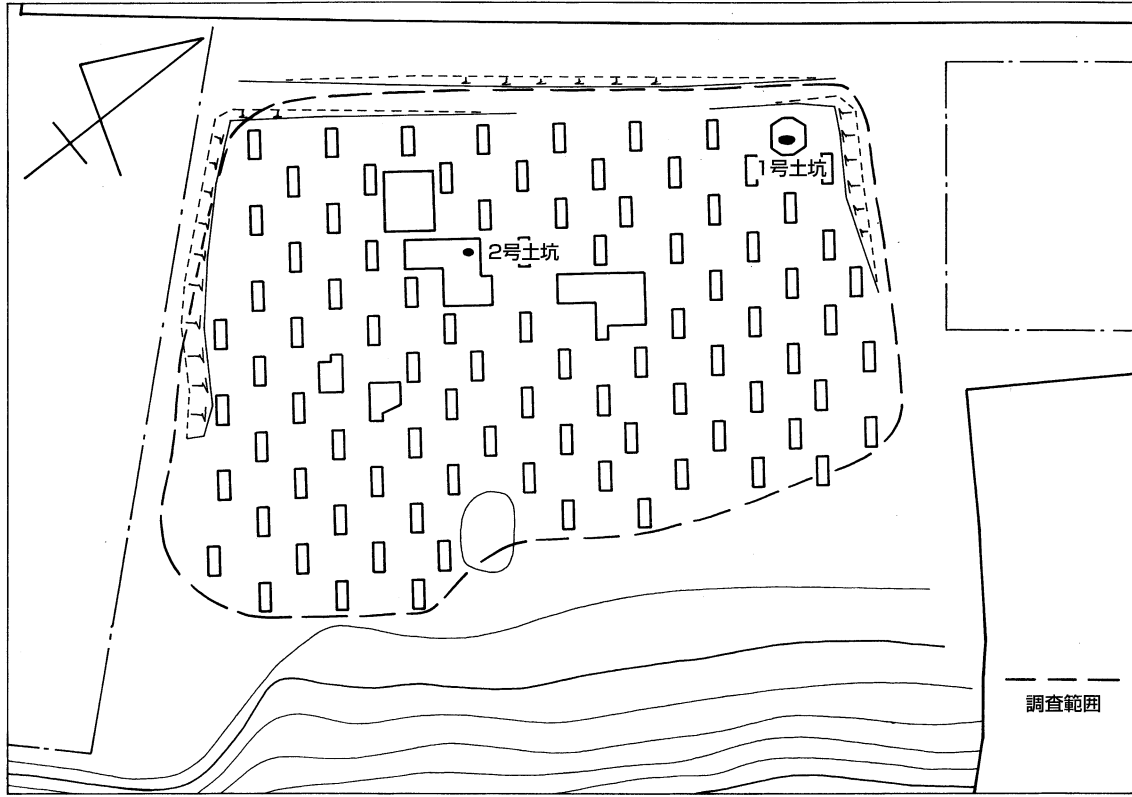
● ——— L = 29,100 m



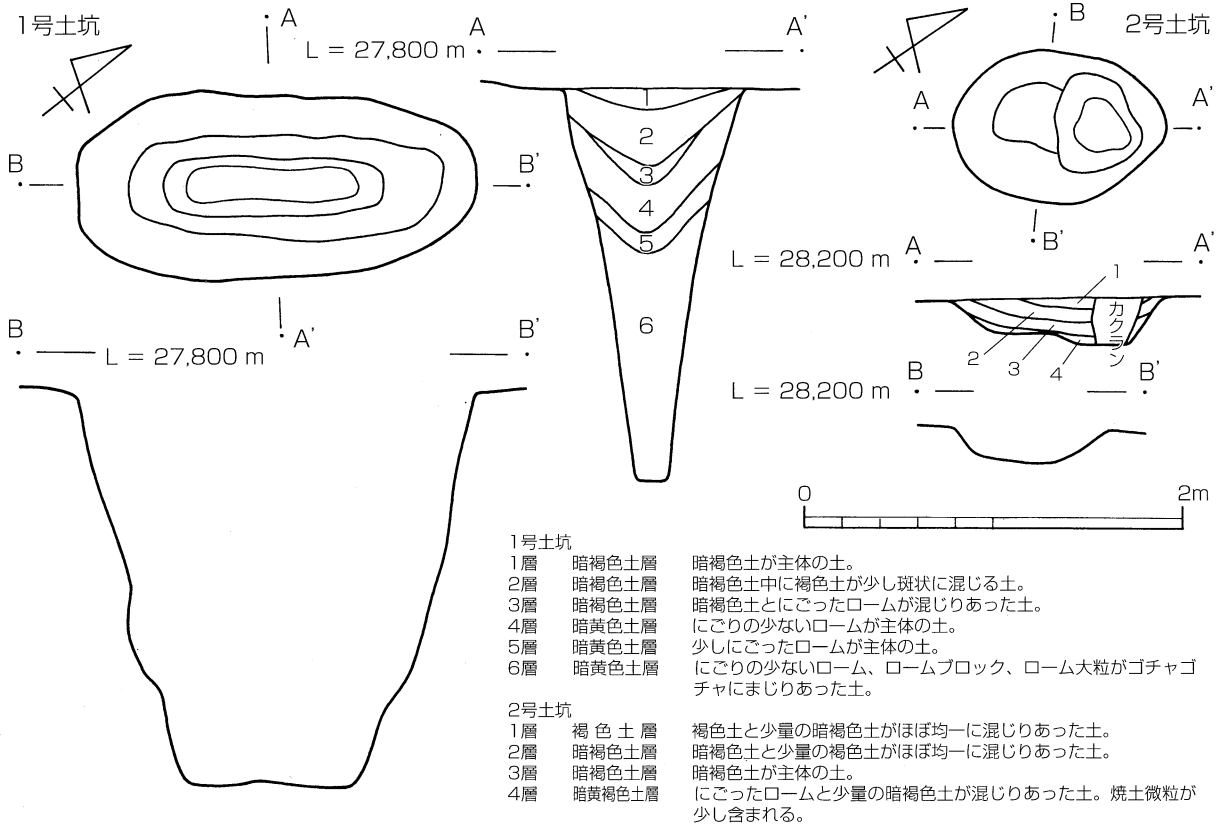
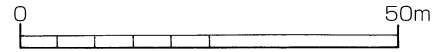
- |          |             |
|----------|-------------|
| I 盛り土層   | V ソフトローム漸移層 |
| II 表土層   | VI ソフトローム層  |
| III 黒色土層 | VII ハードローム層 |
| IV 暗褐色土層 |             |



第7図 内野南遺跡b地点 土層断面図 S=1/40



第8図 内野南遺跡b地点 遺構検出状況図 S=1/1000



第9図 内野南遺跡b地点 1号土坑・2号土坑実測図 S=1/40

遺跡の性格を把握するにはまだまだ調査例が足りない状況である。今後は、調査例をさらに増やしながら、考察を進めていかなければならない遺跡のひとつである。

#### 4. 西内野遺跡

##### 遺跡の立地と概要

西内野遺跡は、市域中央を東西に流れる桑納川より南へ大きく入り込む谷の東側の台地上に位置している。標高は約27mを測り、台地と谷との比高差は約15mである。

本遺跡の調査は今回が初めてであり、周辺地域における調査も過去には例が無く、情報がほとんどない状況での調査となった。現況は山林であり、地表面観察も不可能であった。

##### 調査の方法と経過

調査は、調査区の形状にあわせて10m間隔に1.5m×4mのトレンチを設定し掘削を行い、遺構の検出状況を見ながら、必要に応じてトレンチの増設・拡張を行い、遺構の捕捉に努めた。

調査期間は平成11年2月5日～2月25日で、5日に機材搬入・方眼測量作業を、8日にグリッド設定作業を、12日～15日に重機による表土除去作業・手掘りによる包含層調査を、12日～24日に遺構検出作業・表土層断面調査を、24日に機材撤収を、25日に完掘状況風景写真の撮影を行い調査を終了した。

##### 調査の概要

調査区の基本層序は第11図のとおりである。遺構の確認作業はVI層上面で行い、地表面からは平均して70cm程度で確認面に到達していた。

調査の結果、縄文時代の住居跡2軒・縄文時代の遺構1基・縄文時代の土坑10基（そのうち、落とし穴と思われるものは1基である。）・時期不明の溝1条を検出した。遺物は、縄文土器しか出土していない。前期の浮島式・興津式、中期の阿玉台式の土器小片が主体を占めているが、前期の黒浜式、中期の加曾利E式、後期の加曾利B式の土器小片も少量出土している。グリッドの手掘り調査の結果、遺物の出土層位はⅢ層中からⅣ層中で、出土量も少なくはなかった。旧石器時代については、セクション調査をしたグリッド4ヶ所において16㎡のテストピットを入れたが遺物は検出できなかった。

##### 調査のまとめ

今回の調査により、縄文時代（前期～中期）の住居跡2軒を検出することができ、西内野遺跡や周辺地域において、縄文時代の集落跡を初めて確認することができた。しかし、その密度が薄いことも同時に把握することもできた。また、落とし穴遺構が存在することから考えて、狩り場として土地利用されていたことも想像することができる。

今後、周辺地域の調査例を増やし考察を進めていきたいところだが、西内野遺跡は、吉橋工業団地内にあり、回りにはすでに工場が多く立ち並んでおり、遺跡が残っているような所はほとんど無いのが現状である。今回の調査結果は、周辺地域を含めた上での当時の様子を窺い知るのに貴重な資料といえるものである。



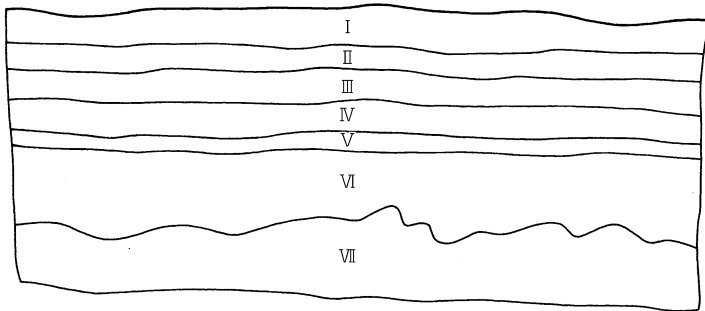
第10図 西内野遺跡 位置図 S=1/2500

A1-85-1 グリッド西壁

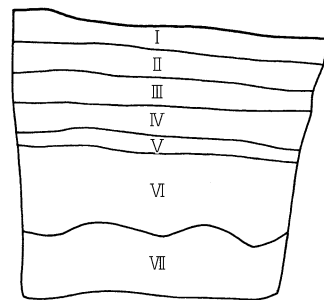
— L = 1,100 m

A1-85-1 グリッド北壁

— L = 1,100 m

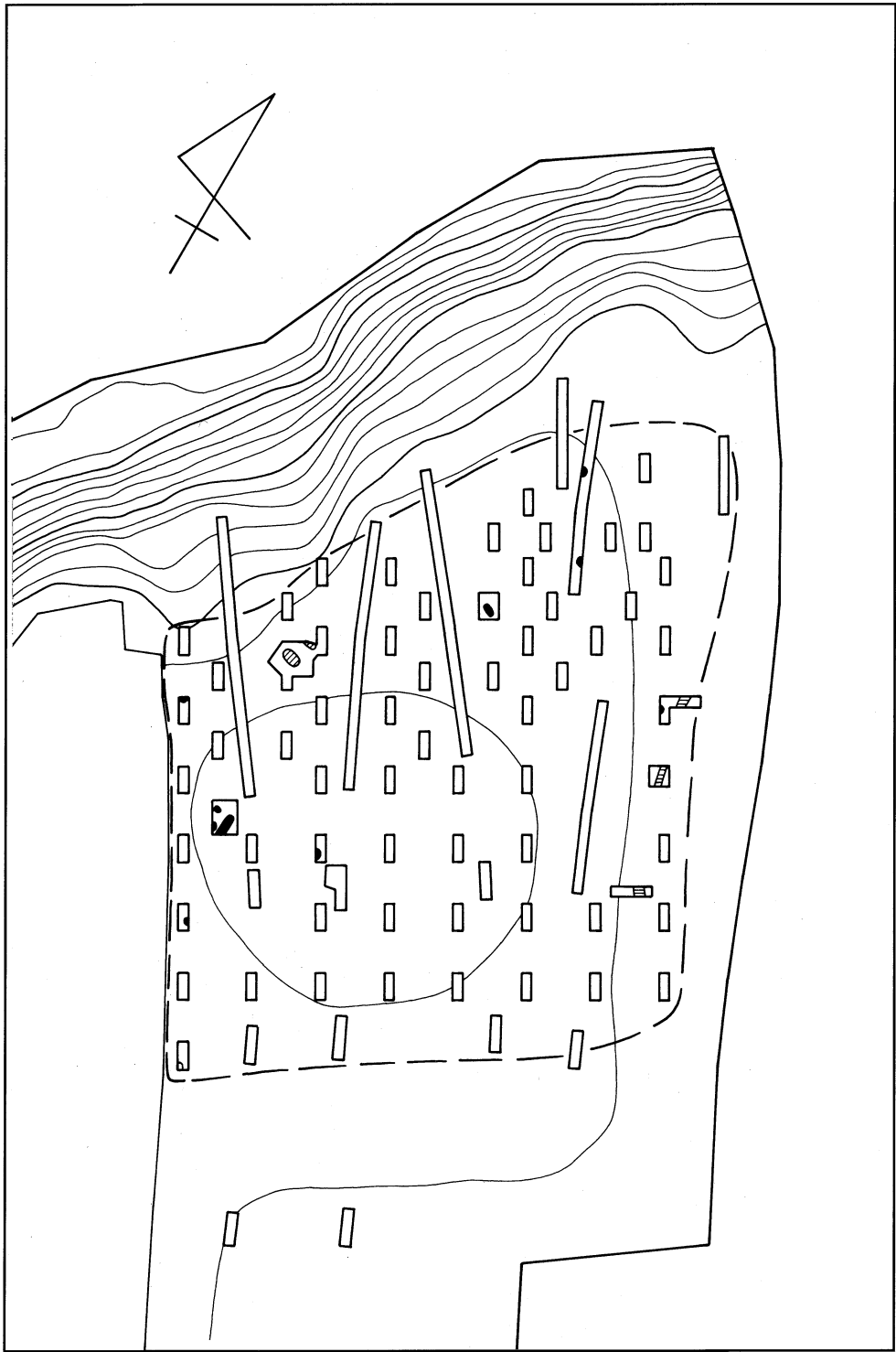


- |                   |             |
|-------------------|-------------|
| I 表土層             | V ソフトローム漸移層 |
| II 黒色土層           | VI ソフトローム層  |
| III 黄褐色土層 (新期テフラ) | VII ハードローム層 |
| IV 暗褐色土層          |             |



0 2m

第11図 西内野遺跡 土層断面図 S=1/40



- 調査範囲

縄文時代の住居跡

縄文時代の遺構
- 0 50m

縄文時代の土坑

時期不明の溝

第12図 西内野遺跡 遺構検出状況図 S=1/1000

図版1 川崎山遺跡 f 地点(1)~(5)、新林遺跡 c 地点(6)~(8)



(1) 調査前風景



(2) 調査風景



(3) 遺構検出状況



(4) 遺構検出状況



(5) 遺物出土状況



(6) 調査前風景



(7) 調査風景



(8) 調査風景

図版2 新林遺跡C地点(1)、内野南遺跡b地点(2)～(8)



(1) トレンチ掘削状況



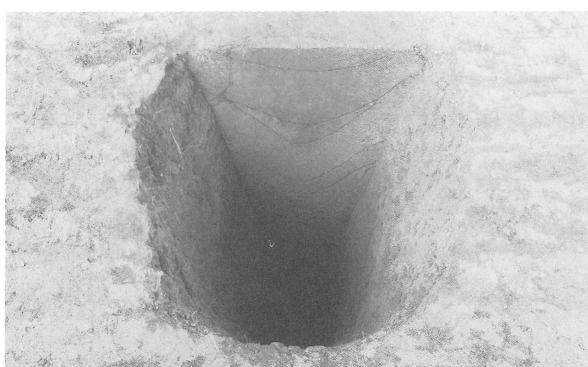
(2) 調査前風景



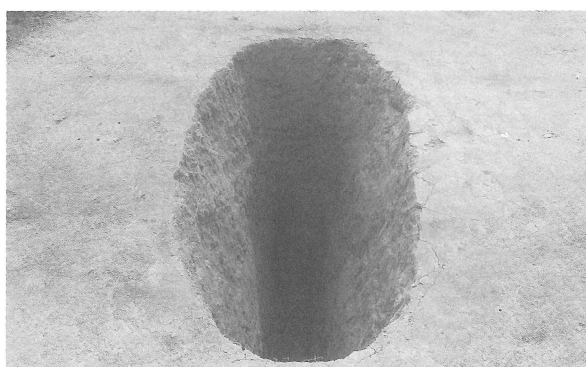
(3) 完掘全景



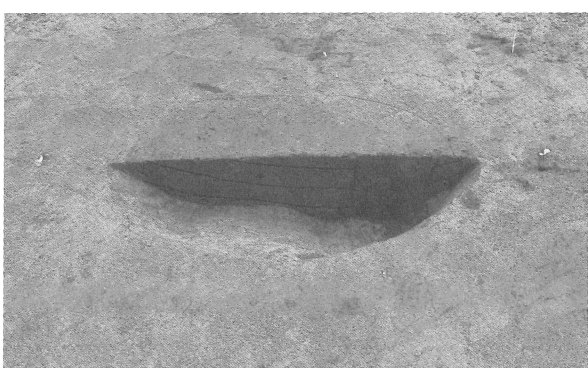
(4) 調査風景



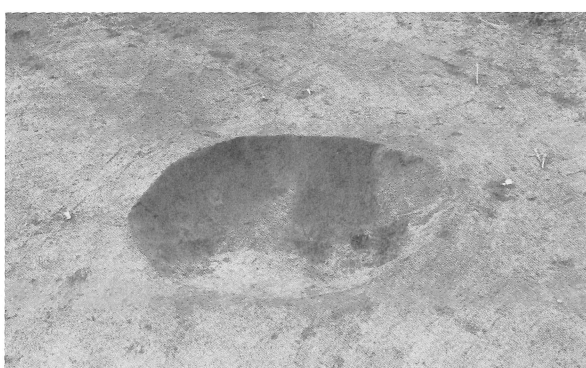
(5) 1号土坑 セクション



(6) 1号土坑 完掘状況



(7) 2号土坑 セクション



(8) 2号土坑 完掘状況



図版3 内野南遺跡b地点(1)、西内野遺跡b地点(2)～(8)



(1) 土層断面 (A1-12-1グリッド 西壁)



(2) 調査前風景



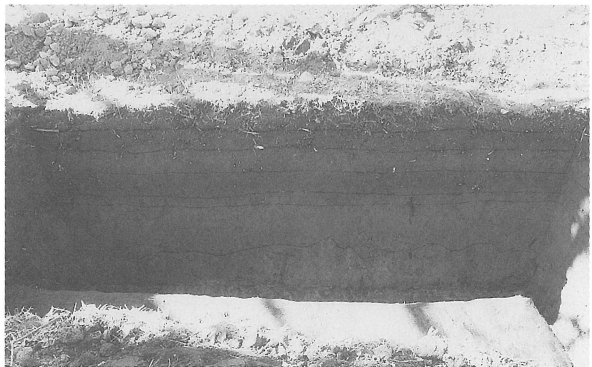
(3) 調査風景



(4) 調査風景



(5) 完掘全景



(6) 土層断面 (A1-85-1グリッド 西壁)



(7) 遺構検出状況



(8) 遺構検出状況

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	ちばけんやちよししないいせきはつくつちょうさほうこくしょ へいせい10ねんど
書 名	千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成10年度
編集者名	宮澤 久史・森 竜哉・蕨 茂美
編集機関	八千代市教育委員会
所在地	〒276-0045 千葉県八千代市大和田138-2 ☎047-483-1151
発行年	西暦1999年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
川崎山遺跡 (f地点)	八千代市萱田町字 川崎山 759の一部	12221	241	35度 43分 5秒	140度 6分 52秒	1998.8.6～ 1998.8.14	209m <sup>2</sup> ／1,550m <sup>2</sup>	宅地造成
新林遺跡 (c地点)	八千代市上高野字 新林 1201-1の一部他	12221	233	35度 43分 3秒	140度 8分 1秒	1998.8.7	74m <sup>2</sup> ／722m <sup>2</sup>	公園造成
内野南遺跡 (b地点)	八千代市吉橋字内野 1079-3他	12221	289	35度 43分 45秒	140度 4分 48秒	1998.8.24～ 1998.9.10	775m <sup>2</sup> ／5,400m <sup>2</sup>	工場建設
西内野遺跡	八千代市吉橋字 西内野 1824-1他	12221	135	35度 44分 13秒	140度 4分 48秒	1999.2.5～ 1999.2.25	763m <sup>2</sup> ／5,400m <sup>2</sup>	物流センター建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
川崎山遺跡 f 地点	集落跡	平安時代	住居跡3軒	平安時代土師器・灰釉陶器	無し
新林遺跡 c 地点	散布地	縄文時代	無し	無し	無し
内野南遺跡 b 地点	散布地	縄文時代	落とし穴土坑1基、 土坑1基	縄文土器	無し
西内野遺跡	集落跡	縄文時代	住居跡2軒、 土坑10基	縄文土器	無し

# 調 査 組 織

調査主体者 磯貝 謹吾 (八千代市教育委員会教育長)

事務担当者 藤城 恒昭 (八千代市教育委員会生涯学習部長)

三浦 幸子 (八千代市教育委員会生涯学習部次長)

実川 憲 (八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課長)

小名木伸雄 (八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課文化財係長)

秋山 利光 (八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課文化財係副主査)

宮澤 久史 (八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課文化財係主事)

調査担当者 森 竜哉 (八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課文化財係主事)

蕨 茂美 (八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課文化財係主事)

調査補助員 小形 幸子 立石ふく子 遠藤 玲子 笠川千代子 鳥羽 良子 阿部るみ子

野中 則子 寺澤 洋子 日向 洋子 原田 雪子 鈴木 一代

整理補助員 見神 光恵 長田 京子 植田 正子

事 務 員 三宅由美子

千葉県 八千代市  
市内遺跡発掘調査報告書

印刷日 1999年3月29日  
発行日 1999年3月31日  
発行 八千代市教育委員会  
生涯学習部社会教育課  
〒276-0045八千代市大和田 138-2  
☎ 047 (483) 1151  
印刷 株式会社 山下印刷